

# 社会資本総合整備計画

ひかりえきしゅうへんちく

光駅周辺地区

(都市再生整備計画事業)

やまぐちけん ひかりし  
山口県 光市

令和3年2月

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

令和03年02月01日

計画の名称	光駅周辺地区都市再生整備計画												
計画の期間	令和03年度～令和07年度(5年間)								重点配分対象の該当	○			
交付対象	光市												
計画の目標	大目標 人、交通、自然をつなぐ、つながる光駅 目標① 南北自由通路や駐輪場等駅周辺施設の整備等により、誰もが便利に安心して利用できる環境を整える。 目標② 海に近接した環境を活かし、にぎわい創出を図る。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	3,298	A	3,298	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R1当初		R7末
1	総人口に占める光駅利用者割合を9.6%(H29)から10.3%(R7)に増加 1日あたりの光駅乗降者数を調査し、総人口に占める光駅利用者の割合を算出する。 (総人口に占める光駅利用者割合) = (1日当たりの光駅乗降者数) / (光市総人口)	9%	%	10%
2	交通結節機能の充実に関する満足度を16.1%(R1)から19.5%(R7)に増加 交通結節機能の充実に関する満足度割合を調査する。 市民アンケート調査で「満足」又は「やや満足」と回答した人の割合	16%	%	19%
3	地区内でのイベント開催回数を3回/年(R1)から6回/年(R7)に増加 地区内で開催したイベントの回数を調査する。 地区内でイベントが開催された回数	3回/年	回/年	6回/年

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																						
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況			
												R03	R04	R05	R06	R07						
		一体的に実施することにより期待される効果 備考																				
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	光市	直接	光市	—	—	光駅周辺地区都市再生整備計画事業	南北自由通路整備L=70m 等	光市	■	■	■	■	■	3,298		—			
												小計						3,298				
											合計						3,298					

## 事前評価チェックシート

計画の名称： 光駅周辺地区都市再生整備計画

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 ①都市再生基本方針との適合等 1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
I. 目標の妥当性 ①都市再生基本方針との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性 ④事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ④事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 ⑤地元の熱意 1) まちづくりに向けた機運がある。	○
III. 計画の実現可能性 ⑤地元の熱意 2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
III. 計画の実現可能性 ⑤地元の熱意 3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性 ⑥円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○



(参考図面)

計画の名称	光駅周辺地区（都市再生整備計画事業）		
計画の期間	令和3年度～令和7年度（5年間）	交付対象	光市



# 都市再生整備計画

ひかりえきしゅうへん ち く  
光駅周辺地区

やまぐちけん ひかりし  
山口県 光市

令和3年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	山口県	市町村名	ひかり市 光市	地区名	ひかりえき しゅう へん ち く 光 駅 周 辺 地 区	面積	65.1 ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度				

目標

- 大目標 人、交通、自然をつなぐ、つながる光駅
- 目標① 南北自由通路や駐輪場等駅周辺施設の整備等により、誰もが便利に安心して利用できる環境を整える。
- 目標② 海に近接した環境を活かし、にぎわい創出を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・本地区は、地域の西端に位置しており、明治45年の虹ヶ浜駅(現在の光駅)の開業以来、商業施設や住宅団地などが集積し、人や物が行きかうにぎわいの拠点として発展してきた。
- ・しかし、本市では、昭和60年ごろをピークに人口減少が進み、商業施設の撤退が進むなど、にぎわいや活気が著しく低下している。
- ・本市では、人口減少や少子高齢化が急速に進む中においても、誰もが生活しやすい持続可能な都市の実現に向けて、地域の拠点ごとにふさわしい機能の一層の集約を図るとともに、拠点と拠点を公共交通網などで結ぶ「地域集約型都市構造(コンパクト・プラス・ネットワーク)」のまちづくりに取り組んでおり、本地区は、この拠点の役割を担っている。
- ・平成24年3月に策定した「光市都市計画マスタープラン」では、都市拠点地区の一つに本地区を位置付け、交通機能や環境整備を進め、都市機能の集積や高度化を図る地区としている。
- ・駅の南北地区を結ぶ虹ヶ丘跨線橋は、まちをつなぐ重要な役割を担っているが、老朽化が進んでおり、バリアフリーにも対応していない。
- ・駅の南側は、国道188号沿いに沿道型の商業施設が立地するとともに、駅から半径約500m圏内には商店街や公共施設、宿泊施設、都市公園等の都市機能が一定程度集積している。
- ・海沿いには日本の白砂青松100選に選ばれた美しい松林など良好な景観が広がっており、都市と自然が調和する、うるおいの都市空間を形成している。
- ・光駅から徒歩4分ほどの距離にある、西日本屈指の海水浴場である虹ヶ浜海岸には、年間約15万人が訪れ、本市の観光客数の約2割を占めている。
- ・南口ロータリーには、バスやタクシーの乗降場はあるが、障害者等の乗降場や一般車両の乗降場がなく、車両と歩行者の通行が交錯し、また、ロータリー東側から通過交通が流入するなど、利用者に対する安全が十分に確保されていない。
- ・南口の駐輪場は東西に分散し、十分な収容台数が確保されていない。また、混雑する駅前広場と国道188号との交差点部を自転車や東方向に通過している。
- ・駅の北側には虹ヶ丘団地が形成されており、本市人口の約1割が集中している。
- ・令和元年5月に、北口から約1.1kmの場所に光市立光総合病院が移転新築された。また、北口駅前広場の前面道路から国道188号に接続する新たな都市計画道路の整備が進んでおり、将来的な交通量の増加が見込まれている。
- ・北口駅前広場には、ロータリーがなく、一般車両やタクシー、障害者等の乗降場もない。バス停も離れた位置に設置されるなど、乗り換え等の利便性が低い。
- ・本地区は今、長期的な視点から重要な過渡期を迎えており、変わりゆく市民ニーズも十分に踏まえつつ、時代の潮流を的確に把握し、将来を見据えた本市の玄関口としてふさわしい魅力ある拠点づくりが求められている。

課題

- ・駅の南北地区を結ぶ虹ヶ丘跨線橋のバリアフリー化
- ・南口・北口ロータリーの十分な規模の確保や必要な機能の適切な配置、利便性の向上など、交通結節点としての機能や安全性の向上
- ・バリアフリーに対応したトイレや南口駐車場エリアへの商業施設など利便施設の導入・配置
- ・本地区の有する大きな特徴である海との近接性を活かした、にぎわいの創出

将来ビジョン(中長期)

- ①第2次光市総合計画:目指す将来像の実現に向けて、特に重点的かつ戦略的に取り組むべき政策である「光・未来創生プロジェクト」の一つに、「ゆきかう光! JR光駅の橋上化と交通ネットワーク強化プロジェクト」を掲げ、各種施設の老朽化や移動等の円滑化が課題となっているJR光駅の南北における一体的な拠点整備に取り組む、まちの玄関口にふさわしい都市拠点を創出することを示している。
- ②光市都市計画マスタープラン:「光駅周辺地区」を都市拠点の一つに位置付け、交通機能や環境整備を進め、都市機能の集積や高度化を図る地区としている。また、にぎわいの場の創出や、本市の玄関口にふさわしい都市機能の充実、虹ヶ浜海岸と調和した都市空間の創出を図ることを示している。
- ③光市立地適正化計画:「光駅周辺～島田市」を、「市の玄関口として、市内の人々が訪れ、にぎわいと活気のある都市拠点」とし、都市機能誘導区域として、交流施設や観光案内施設などの誘導施設を定めている。
- ④光市地域公共交通網形成計画:主要交通結節点として、計画の目標に「利用しやすい交通結節機能の充実」を掲げ、光駅周辺を含む「交通結節点の環境整備」に取り組むことを示している。
- ⑤光駅周辺地区拠点整備基本構想:整備の基本的な方向性に、「人をつなぐ～誰にもやさしいユニバーサルデザインの回遊空間づくり」、「人がつどう～心やすらぐ癒しと活気が共存する魅力空間づくり」、「人でつくる～未来につながる一人ひとりが主役の連携空間づくり」を位置付けている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
総人口に占める光駅利用者割合	%	1日当たりの光駅乗降者数を光市の総人口で除した値	自由通路の拡幅やバリアフリー化等により、便利に安心して利用できる環境を整備し、人口減少下においても駅利用者数を維持する。	9.6%	平成29年度	10.3%	令和7年度
交通結節機能の充実に関する満足度割合	%	市民アンケート調査で「満足」又は「やや満足」と回答した人の割合	自由通路、トイレ、駐輪場等の整備により、交通結節点としての機能が向上することで、市民の満足度を高める。	16.1%	令和元年度	19.5%	令和7年度
イベント開催回数	回/年	地区内でイベントが開催された回数	地区内の公園などを活用したイベントの開催を支援し、イベント開催回数を増やし、にぎわい創出の気運を醸成する。	3回/年	令和元年度	6回/年	令和7年度

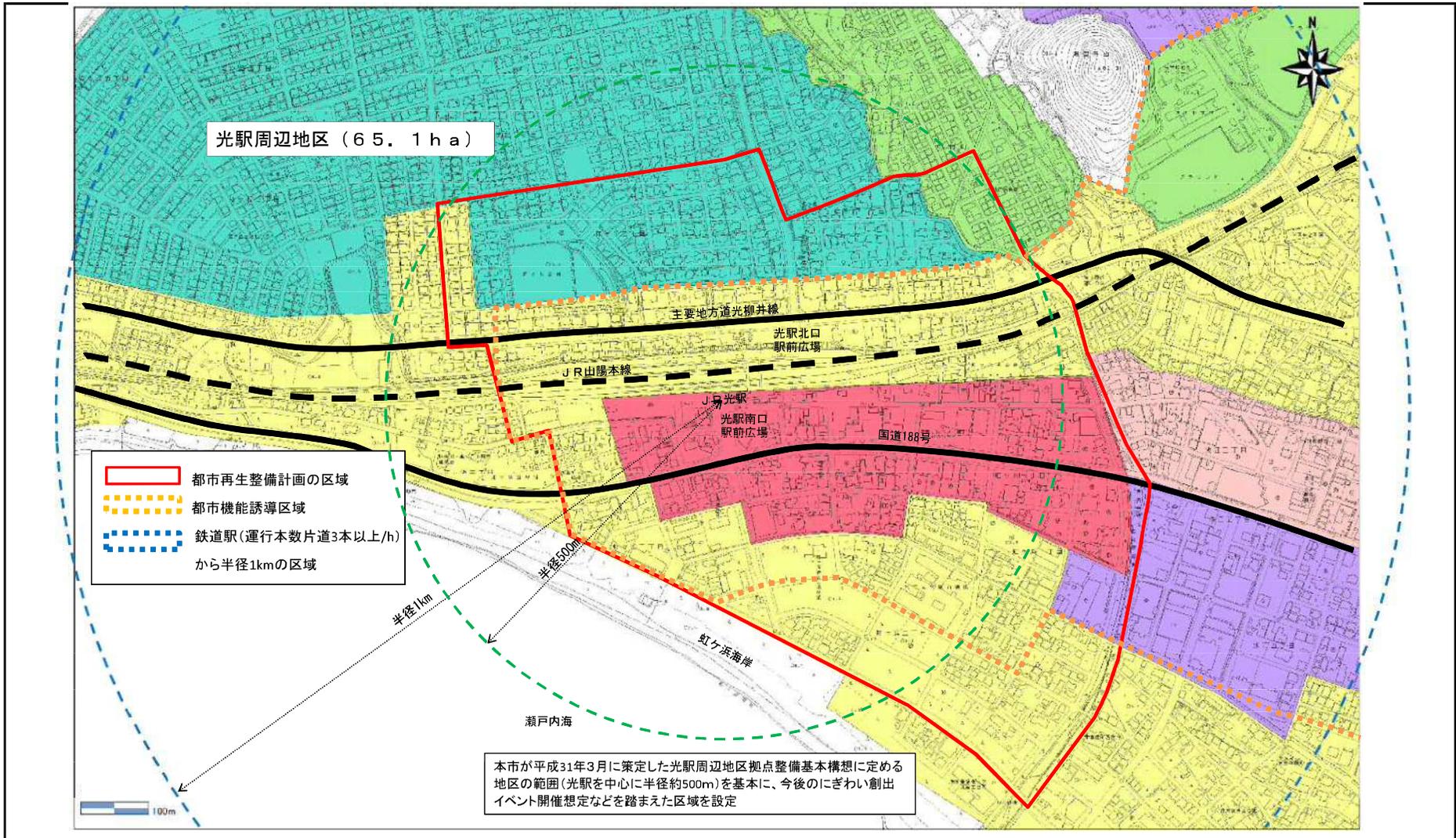
整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針① 誰もが便利に安心して利用できる環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 現駅舎の西側に通路拡幅やエレベーター設置などバリアフリーに対応した、駅舎と一体的に利用できる、新しい南北自由通路を整備し、安心して利用できる環境を整える。</li> <li>▪ バリアフリー対応の公衆トイレを整備し、利便性向上を図る。</li> <li>▪ 南北駐輪場を再整備することにより、安全性と利便性の向上を図る。</li> <li>▪ 一般車両乗降場の確保など、南北駅前広場や駐車場の整備による安全で便利に利用できる環境整備に向けた調査を進める。</li> </ul>	<p>【基幹事業】道路：南北自由通路整備            【基幹事業】地域生活基盤施設：光駅北口駐輪場整備、光駅南口駐輪場整備            【基幹事業】高質空間形成施設：光駅南口公衆トイレ整備            【基幹事業】地域生活基盤施設：ペDESTリアンデッキ整備            【提案事業】事業活用調査：光駅南北駅前広場調査、光駅北口駐車場調査</p> <p>(関連事業)光駅南口駐車場整備事業</p>
<p>整備方針② 海に近接した環境を活かし、にぎわい創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 南北自由通路南端に、景色を楽しみながら、交流や待ち合い場所としても利用できる展望デッキや交流広場を整備し、滞在空間としての魅力向上を図る。</li> <li>▪ 地域住民との協働により、地区内の公園などを活用したイベントを開催し、にぎわい創出の気運の醸成を図り、にぎわいの定着・拡大へとつなぐ。</li> </ul>	<p>【基幹事業】地域生活基盤施設：ペDESTリアンデッキ整備            【提案事業】まちづくり活動推進事業：にぎわい創出イベント支援</p> <p>(関連事業)交流広場整備事業</p>
<p>その他</p>	
<p>【事業終了後の継続的なまちづくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「光駅周辺地区拠点整備基本構想」の方針に沿って、計画的なまちづくりを進める。</li> <li>▪ 海と駅との景観軸を中心に、地区内の公園や店舗など地域資源をつなぐことを意識したイベントなど、回遊性を意識したにぎわい拡大を支援する方法を検討する。</li> </ul> <p>【民間活力導入に向けた取組みについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 光駅南口駐車場整備事業及び交流広場整備事業については、住機能、商業機能などの駅前ににぎわいを創出する新たな施設の導入の可能性も含め、民間事業者の意向等の把握や事業手法の検討など、民間活力の活用に向けた取組みを進める。</li> </ul>	



<p>光駅周辺地区(山口県光市)</p>	<p>面積 65.1 ha</p>	<p>区域 虹ヶ浜一丁目の全部と虹ヶ浜二丁目、三丁目、虹ヶ丘一丁目、二丁目、中村町、浅江三丁目、五丁目、七丁目の一部</p>
----------------------	-------------------	--



ひかり えき しゅうへん ち く やまぐちけんひかりし

光 駅 周 辺 地 区(山口県光市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目 標	大目標 人、交通、自然をつなぐ、つながる光駅	代表的な 指標	総人口に占める光駅利用者割合 ( % )	9.6%	(H29年度)	→	10.3%	(R7年度)
	目標① 南北自由通路や駐輪場等駅周辺施設の整備等により、誰もが便利に安心して利用できる環境を整える。		交通結節機能の充実に関する満足度割合 ( % )	16.1%	(R元年度)	→	19.5%	(R7年度)
	目標② 海に近接した環境を活かし、にぎわい創出を図る。		イベント開催回数 ( 回/年 )	3回/年	(R元年度)	→	6回/年	(R7年度)

